

内航海運における輸送動向調査結果について[2017.10]

内航海運の貨物船・油送船の主要元請オペレータ 60 社における輸送量（内航輸送量全体の 80%以上を占める）について、毎月末に調査を行っている。
2017 年 10 月末の調査結果は以下の通りとなった。

貨物船の概要

2017 年 9 月（実績値）における貨物船の輸送量は、18,654 千トンで前年同月比 101%、前月比で 107%となっている。
輸送主要品目別に前年同月比を見ると、鉄鋼は 102%。前年同月が高炉改修による輸送量の減少が見られたが今年はなく、輸送計画も高いレベルにあったが、台風 15 号（8/31～9/3）、18 号（9/16～9/18）による輸送障害が見られた。原料は 101%。台風の影響を受けつつも、セメントの需要を反映し微増となった。燃料は 103%。火力発電所向け石炭の輸送が堅調に推移した。紙・パルプは 101%。前年同月は製紙工場の休転で低水準の輸送であった。今年は休転が見られなかったため、微増となった。ただし、複数の工場でマシントラブルが発生し、生産量は減少となっている。雑貨は 97%。前年同月が台風 10 号の発生により北海道地区では JR 貨物の貨物が流れてきたことや前年 8 月に運び切れなかった貨物の輸送で大きく増加していたため、前年比では減少となった。自動車は 101%。引き続き、新型車販売が好調となっている。セメントは 104%。関東地区や東海地区への輸送が目立った。

油送船の概要

2017 年 9 月（実績値）における油送船の輸送量は、9,728 千 kl・千トンで前年同月比 98%、前月比で 95%となっている。
黒油は 91%。電力需要の減少が継続している一方、製油所間の基材転送の増加により下げ留まっている。
白油（ガソリン・灯油・軽油）は 99%。台風 18 号の影響で輸送障害が見られた。また、天候不良によりガソリンの販売減少も続いている。冬期用の灯油の輸送も低調であった。
ケミカルは 107%。定修が一段落した。台風の影響は軽微であり、輸出用製品輸送や内需の高まりにより輸送は好調。
高圧液化は 107%。前月同様、LPG は前年が製油所の不具合による大幅減があり今年はなかったため増加した。エチレンも増加している。
高温液体は 85%。アスファルトは大口需要家向けや転送の減少が見られたため減少。
耐腐食は 95%。苛性ソーダの需要の減少が見られたほか、硫酸は定修の影響を受け減少した。

【貨物船】内航輸送主要元請オペ(2017年9月分)輸送実績推移表

単位:千トン

分類	月	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10~9月累計
	回答社数	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
鉄鋼 15社	当年	3,583	3,397	3,365	3,402	3,287	3,862	3,562	3,879	3,561	3,584	3,386	3,478	42,348
	前年	3,551	3,097	3,379	3,116	3,234	3,717	3,035	3,258	3,123	3,558	3,246	3,405	39,720
	前年対比	1.01	1.10	1.00	1.09	1.02	1.04	1.17	1.19	1.14	1.01	1.04	1.02	1.07
	(前月比)	-	(0.95)	(0.99)	(1.01)	(0.97)	(1.18)	(0.92)	(1.09)	(0.92)	(1.01)	(0.94)	(1.03)	-
原料 (石灰石、スラグ等) 23社	当年	4,761	4,581	4,850	4,525	4,467	4,969	4,282	4,719	4,722	4,837	4,729	4,706	56,148
	前年	4,703	4,340	4,984	4,426	4,547	4,808	4,176	4,475	4,574	4,874	4,740	4,666	55,313
	前年対比	1.01	1.06	0.97	1.02	0.98	1.03	1.03	1.05	1.03	0.99	1.00	1.01	1.02
	(前月比)	-	(0.96)	(1.06)	(0.93)	(0.99)	(1.11)	(0.86)	(1.10)	(1.00)	(1.02)	(0.98)	(1.00)	-
燃料 (石炭、コークス) 14社	当年	1,245	1,351	1,262	1,291	1,196	1,228	1,067	1,035	1,284	1,322	1,390	1,334	15,005
	前年	1,239	977	1,252	1,231	1,215	1,329	1,063	978	1,147	1,438	1,265	1,295	14,428
	前年対比	1.00	1.38	1.01	1.05	0.98	0.92	1.00	1.06	1.12	0.92	1.10	1.03	1.04
	(前月比)	-	(1.09)	(0.93)	(1.02)	(0.93)	(1.03)	(0.87)	(0.97)	(1.24)	(1.03)	(1.05)	(0.96)	-
紙・パルプ 10社	当年	230	198	231	215	188	224	217	204	214	201	201	195	2,518
	前年	222	217	223	227	206	229	210	205	201	204	163	193	2,500
	前年対比	1.04	0.91	1.03	0.94	0.91	0.98	1.03	0.99	1.06	0.99	1.23	1.01	1.01
	(前月比)	-	(0.86)	(1.16)	(0.93)	(0.88)	(1.19)	(0.97)	(0.94)	(1.05)	(0.94)	(1.00)	(0.97)	-
雑貨 (一般雑貨、コンテナ等) 22社	当年	2,336	2,301	2,299	1,932	1,895	2,142	1,997	2,075	2,415	2,384	2,126	2,221	26,124
	前年	2,295	2,114	2,192	1,821	1,994	2,160	2,095	1,831	1,969	2,142	2,003	2,292	24,908
	前年対比	1.02	1.09	1.05	1.06	0.95	0.99	0.95	1.13	1.23	1.11	1.06	0.97	1.05
	(前月比)	-	(0.98)	(1.00)	(0.84)	(0.98)	(1.13)	(0.93)	(1.04)	(1.16)	(0.99)	(0.89)	(1.04)	-
自動車 12社	当年	3,895	3,813	3,744	3,665	4,456	5,129	4,157	3,474	4,323	4,237	3,203	4,238	48,334
	前年	3,933	3,688	3,685	3,489	3,962	4,995	3,439	3,286	3,941	4,048	2,989	4,183	45,638
	前年対比	0.99	1.03	1.02	1.05	1.12	1.03	1.21	1.06	1.10	1.05	1.07	1.01	1.06
	(前月比)	-	(0.98)	(0.98)	(0.98)	(1.22)	(1.15)	(0.81)	(0.84)	(1.24)	(0.98)	(0.76)	(1.32)	-
セメント 12社	当年	2,642	2,609	2,597	2,249	2,467	2,722	2,171	2,352	2,527	2,682	2,423	2,482	29,923
	前年	2,739	2,638	2,699	2,220	2,433	2,549	2,149	2,293	2,354	2,664	2,236	2,390	29,363
	前年対比	0.96	0.99	0.96	1.01	1.01	1.07	1.01	1.03	1.07	1.01	1.08	1.04	1.02
	(前月比)	-	(0.99)	(1.00)	(0.87)	(1.10)	(1.10)	(0.80)	(1.08)	(1.07)	(1.06)	(0.90)	(1.02)	-
貨物船 合計 40社	当年	18,692	18,249	18,348	17,279	17,957	20,276	17,453	17,737	19,046	19,249	17,457	18,654	220,399
	前年	18,682	17,070	18,415	16,530	17,591	19,786	16,166	16,326	17,310	18,929	16,642	18,423	211,871
	前年対比	1.00	1.07	1.00	1.05	1.02	1.02	1.08	1.09	1.10	1.02	1.05	1.01	1.04
	(前月比)	-	(0.98)	(1.01)	(0.94)	(1.04)	(1.13)	(0.86)	(1.02)	(1.07)	(1.01)	(0.91)	(1.07)	-

2017(平成29)年4月実績より対象事業者を追加した。それに伴い、2017年3月以前の「雑貨」、「自動車」及び「合計」値が変更となっている。

【油送船】内航輸送主要元請オペ(2017年9月分)輸送実績推移表

単位:千KL・千トン

分類	月	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10~9月累計
	回答社数	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29
黒油 18社	当年	2,426	2,916	2,895	2,892	2,618	2,813	2,654	2,263	2,205	2,518	2,376	2,322	30,898
	前年	2,772	2,872	3,228	3,285	3,254	3,109	2,623	2,482	2,535	2,825	2,526	2,553	34,064
	前年対比	0.88	1.02	0.90	0.88	0.80	0.90	1.01	0.91	0.87	0.89	0.94	0.91	0.91
	(前月比)	-	(1.20)	(0.99)	(1.00)	(0.91)	(1.07)	(0.94)	(0.85)	(0.97)	(1.14)	(0.94)	(0.98)	-
白油 15社	当年	6,166	6,239	6,436	6,142	6,007	6,365	5,652	5,915	5,686	5,941	5,953	5,654	72,156
	前年	6,305	6,179	6,814	6,416	6,164	6,470	5,764	5,965	5,653	5,834	5,383	5,687	72,634
	前年対比	0.98	1.01	0.94	0.96	0.97	0.98	0.98	0.99	1.01	1.02	1.11	0.99	0.99
	(前月比)	-	(1.01)	(1.03)	(0.95)	(0.98)	(1.06)	(0.89)	(1.05)	(0.96)	(1.04)	(1.00)	(0.95)	-
ケミカル 13社	当年	680	702	735	716	649	741	712	715	676	717	723	704	8,468
	前年	646	636	684	666	629	678	661	681	617	678	671	657	7,905
	前年対比	1.05	1.10	1.07	1.07	1.03	1.09	1.08	1.05	1.10	1.06	1.08	1.07	1.07
	(前月比)	-	(1.03)	(1.05)	(0.97)	(0.91)	(1.14)	(0.96)	(1.00)	(0.94)	(1.06)	(1.01)	(0.97)	-
高压液化 (LPG、塩ビモノマー等) 13社	当年	562	641	658	637	625	658	614	544	511	600	592	542	7,185
	前年	564	583	643	608	618	566	522	493	482	529	530	506	6,644
	前年対比	1.00	1.10	1.02	1.05	1.01	1.16	1.18	1.10	1.06	1.13	1.12	1.07	1.08
	(前月比)	-	(1.14)	(1.03)	(0.97)	(0.98)	(1.05)	(0.93)	(0.89)	(0.94)	(1.17)	(0.99)	(0.92)	-
高温液体 (アスファルト、硫黄等) 7社	当年	105	110	126	111	111	145	90	118	121	122	113	103	1,375
	前年	137	153	132	91	115	131	101	96	108	117	107	121	1,410
	前年対比	0.76	0.72	0.95	1.22	0.97	1.11	0.89	1.23	1.12	1.04	1.06	0.85	0.98
	(前月比)	-	(1.05)	(1.14)	(0.89)	(1.00)	(1.30)	(0.62)	(1.30)	(1.03)	(1.01)	(0.93)	(0.91)	-
耐腐食 (硫酸、苛性ソーダ等) 13社	当年	436	434	471	462	431	449	407	403	384	446	442	402	5,166
	前年	446	405	462	468	464	477	433	398	378	417	414	421	5,184
	前年対比	0.98	1.07	1.02	0.99	0.93	0.94	0.94	1.01	1.01	1.07	1.07	0.95	1.00
	(前月比)	-	(1.00)	(1.08)	(0.98)	(0.93)	(1.04)	(0.91)	(0.99)	(0.95)	(1.16)	(0.99)	(0.91)	-
油送船 合計 29社	当年	10,375	11,043	11,320	10,960	10,440	11,172	10,130	9,958	9,582	10,343	10,198	9,728	125,249
	前年	10,870	10,827	11,963	11,535	11,244	11,432	10,104	10,115	9,774	10,401	9,631	9,945	127,841
	前年対比	0.95	1.02	0.95	0.95	0.93	0.98	1.00	0.98	0.98	0.99	1.06	0.98	0.98
	(前月比)	-	(1.06)	(1.03)	(0.97)	(0.95)	(1.07)	(0.91)	(0.98)	(0.96)	(1.08)	(0.99)	(0.95)	-

2017年 内航輸送主要元請オペ 輸送実績推移表 < 前年同期対比 >

単位:千トン

分類		上半期 4月～9月	下半期 10月～3月	合計
鉄鋼	2017年度	21,451		21,451
	2016年度	19,627	20,896	40,523
	前年度対比	1.09	0.00	0.53
原料 (石灰石等)	2017年度	27,996		27,996
	2016年度	27,504	28,152	55,657
	前年度対比	1.02	0.00	0.50
燃料 (石炭 ・コークス)	2017年度	7,432		7,432
	2016年度	7,186	7,573	14,759
	前年度対比	1.03	0.00	0.50
紙・パルプ	2017年度	1,231		1,231
	2016年度	1,175	1,286	2,461
	前年度対比	1.05	0.00	0.50
雑貨	2017年度	13,219		13,219
	2016年度	12,333	12,905	25,238
	前年度対比	1.07	0.00	0.52
自動車	2017年度	23,632		23,632
	2016年度	21,886	24,702	46,588
	前年度対比	1.08	0.00	0.51
セメント	2017年度	14,637		14,637
	2016年度	14,085	15,286	29,372
	前年度対比	1.04	0.00	0.50
貨物船計	2017年度	109,597		109,597
	2016年度	103,796	110,801	214,598
	前年度対比	1.06	0.00	0.51

単位:千KL・千トン

分類		上半期 4月～9月	下半期 10月～3月	合計
黒油	2017年度	14,338		14,338
	2016年度	15,544	16,560	32,104
	前年度対比	0.92	0.00	0.45
白油	2017年度	34,802		34,802
	2016年度	34,287	37,355	71,641
	前年度対比	1.02	0.00	0.49
ケミカル	2017年度	4,246		4,246
	2016年度	3,966	4,222	8,188
	前年度対比	1.07	0.00	0.52
高压液化	2017年度	3,403		3,403
	2016年度	3,063	3,782	6,844
	前年度対比	1.11	0.00	0.50
高温液体	2017年度	667		667
	2016年度	650	708	1,358
	前年度対比	1.03	0.00	0.49
耐腐食	2017年度	2,483		2,483
	2016年度	2,461	2,683	5,144
	前年度対比	1.01	0.00	0.48
油送船計	2017年度	59,939		59,939
	2016年度	59,970	65,310	125,280
	前年度対比	1.00	0.00	0.48

2017(平成29)年4月実績より対象事業者を追加。それに伴い「雑貨」「自動車」「合計」数量を訂正。

.....

2017年9月の輸送実績(内航輸送主要元請オペ60社)

.....

★天候

沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われて暖かい空気に覆われやすかったため、月間日照時間は多く、月平均気温はかなり高かった。沖縄・奄美の月平均気温の平年差は+1.3℃となり、9月として1位タイの高温となった(統計開始は1946年)。

日照時間は、北日本と東日本日本海側でかなり多く、西日本では少なかった

北日本と東日本日本海側では、高気圧に覆われやすく、月間日照時間はかなり多かった。

一方、西日本では、前線や湿った空気の影響を受けやすく、月間日照時間は少なかった。

中旬には、台風第18号と前線の影響で、北・西日本と沖縄・奄美を中心に大雨となり、河川の氾濫や浸水、土砂災害などの被害が発生した。

(2017/10/25 日経新聞)

10月の月例経済報告、9月からの変更点(表)

政府は25日にまとめた10月の月例経済報告で、国内景気の基調判断を「緩やかな回復基調が続いている」で据え置いた。5カ月連続で同じ表現にした。先行きについては「緩やかに回復していく」との見方を維持した。海外景気は「緩やかに回復している」との判断を据え置いた。

基調判断や主な変更項目は以下の通り。↑は上方修正、↓は下方修正、→は据え置き。

【総括】

◎景気判断 [→]

緩やかな回復基調が続いている

◎先行き [→]

雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある

【主な個別項目】

◎輸入 [↓]

持ち直しの動きに足踏みがみられる

(持ち直しの動きがみられる)

◎貿易・サービス収支：表現変更

黒字は増加傾向にある

(黒字は、おおむね横ばいとなっている)

◎国内企業物価：表現変更

このところ緩やかに上昇している

(上昇テンポが鈍化している)

【海外】

緩やかに回復している

◎中国：表現変更

各種政策効果もあり、景気は持ち直しの動きが続いている
(各種政策効果もあり、景気は持ち直しの動きがみられる)

■貨物計 前年同月比 1%増、前月比 7%増(1,865.4 万トン)

前年同月比(増加品目)鉄鋼、原料、燃料、紙・パルプ、自動車、セメント
(減少品目)雑貨
(変わらず)

鉄鋼 19%、原料 25%、自動車 18%、セメント 14%、雑貨 12%、燃料(石炭・コークス)8%、紙・パルプ 1%

■鉄鋼 前年同月比 2%増、前月比 3%増(347.8 万トン)

前年同月が高炉改修による輸送量の減少が見られたが今年はなく、輸送計画も高いレベルにあったが、台風 15 号(8/31~9/3)、18 号(9/16~9/18)による輸送障害が見られた。
鉄鋼連盟発表の 9 月の普通鋼鋼材国内在庫率は 144.0%で前月比 14.3%減となった。

(鉄鋼連盟の「鉄鋼需給の動き」及びヒアリング)

8 月の普通鋼鋼材用途別受注高は

前年比で建設用 104.5%。このうち建築用は前年比 107.2%、住宅用は 117.5%、土木用は 104.1%。

製造業用 94.8%(産業機械用が 110.0%、電機機械用が 107.1%、家庭用業務用機器用が 107.3%、船舶用が 82.0%、自動車用が 95.2%。

内需計は 99.8%。輸出 101.9%。

(2017/10/25 日経新聞)

鋼材値上がり 東京都心の再開発本格化

厚板は月初に比べ 2%上昇し、薄板や H 形鋼も値上がりした。東京都心再開発を中心に建設需要が力強さを増している。先高観から仕入れを前倒しする動きもみられ一部で品薄館が出ている。建設コストの増加になりそうだ。

ビル建築や造船、機械に使う厚鋼板(厚板)は指標となる 12 mm厚が 1 トン 7 万 8500 円前後 10 月初めに比べ 1500 円(2%)高くなった。

約 8 年ぶりの高値圏で年初からの上昇率は 27%に達する。

新日鉄住金は 10 月契約分から 1 トン 3 千円の引き上げを表明。

土台工事の終わった新国立競技場や都心の再開発需要が本格的になり、荷動きは 9 月以降もり上がってきた。

■原料(石灰石・スラグ等) 前年同月比 1%増、前月比変わらず(470.6 万トン)

台風の影響を受けつつも、セメントの需要を反映し微増となった。

前年比で石灰石は変わらず、スラグは 3%増、その他原材料 3%増、

金属鉱は4%減、非金属鉱は13%増。

(石灰石鉱業協会「月例需給分析」及びヒアリング)

9月(速報)は生産量が前年比3.4%増(1,186万トン。国内出荷量は1,142万トン、2.6%増。

9月(速報)の用途別出荷量は、セメント用は4.1%増、骨材用は6.4%増、道路用は11.9%減、鉄鋼用は6.9%減。

鉄鋼の輸送手段は船舶輸送が8割を占めている。

* 出荷量の比率は、セメント用48%、骨材用22%、鉄鋼用13%の割合となっている。

■燃料(石炭・コークス) 前年同月比3%増、前月比4%減(133.4万トン)

火力発電所向け石炭の輸送が堅調に推移した。

石炭は前年比12%増、前月比2%増

コークスは前年比13%減、前月比15%減

■紙・パルプ 前年同月比1%増、前月比3%減(19.5万トン)

前年同月は製紙工場の休転で低水準の輸送であった。

今月は休転が見られなかったため、微増となった。

ただし、複数の工場でマシントラブルが発生し、生産量は減少となっている。

(日本製紙連合「紙・板紙需給速報」及びヒアリング)

9月の紙・板紙需給速報によると、紙・板紙の国内出荷は前年比99.3%。うち紙は、97.5%。板紙は101.6%。新聞用紙は94.0%、13ヶ月連続の減少。

印刷・情報用紙は97.6%。衛生用紙は98.7%。

紙・板紙の輸出は前年同月比123.6%。21ヶ月連続の増加。紙は17.2%増、東アジア、東南アジア向けの増加により2ヶ月連続の増加。板紙は136.4%。東アジア向けの増加により24ヶ月連続。

段ボール原紙の国内出荷は前年同月比1.6%増加。11ヶ月連続の増加。

■雑貨 前年同月比3%減、前月比4%増(222.1万トン)

前年同月が台風10号の発生により北海道地区ではJR貨物の貨物が流れてきたことや前年8月に運び切れなかった貨物の輸送で大きく増加していたため、前年比では減少となった。

一般雑貨5%減、コンテナ3%減、塩7%増

JR貨物「輸送動向について」(9月分)

今月は、広島・岡山地区の大雨および台風18号接近の影響等により、月全体で高速貨177本が運休となった(前年は高速貨324本、専貨4本が運休)。台風18号の影響で不通となっている日豊線については、トラックによる代行輸送を実施している。

コンテナについては、積み合わせ貨物がドライバー不足を背景に鉄道へのシフトが続き、関東や関西地区発を中心に好調となった。

また、農産品・青果物は北海道産野菜類や馬鈴薯が前年に台風の影響を受けていたことも

あり、前年を大きく上回ったほか、食料工業品は関西発北陸向けのビールが堅調に推移したことに加え、北海道・新潟発の菓子類が増送し、前年を上回った。

さらに、自動車部品も大手自動車メーカーの販売好調に伴い、東海・東北地区間や関東・九州地区間などでの輸送が順調に推移した。

一方、紙・パルプは印刷紙・コート紙の需要減少等により、前年を下回ったものの、コンテナ全体では前年比 107.7%となった。

車扱については、石油が配送圏の見直しに伴い鉄道へのシフトが進んだことから、前年を上回った一方で、セメント・石灰石は需要減少等により大幅な減送となった。その結果、車扱全体では前年比 100.9%となった。

コンテナ・車扱の合計では、前年比 105.9%となった。

■自動車 前年同月比 1%増、前月比 32%増(423.8 万トン)

新型車の輸送が好調。

(日本自動車販売協会連合会 HP)

「新車販売統計(登録車+軽自動車)」

9月は約 50 万台、前年比 104%

軽自動車は 177,005 台、111.3%、登録車は 318,175 台、100.4%

10月は約 51 万台、前年比 136%

軽自動車は 140,907 台、103.7%、登録車は 372,470 台、98.3%

(2017/11/1 朝日新聞)

国内の新車販売、12カ月ぶりに前年割れ 日産問題影響

日産自動車が無資格検査問題で販売を減らした影響で、10月の国内市場全体の新車販売は12カ月ぶりに前年を割り込んだ。1日の業界団体の発表によると、10月に国内で売れた新車は前年同月比1・7%減の37万2470台。好調が続いていた国内市場に日産の不正がブレーキをかけた形だ。

日産は、無資格の従業員に「完成検査」を担当させ、是正を公表した後も同様の不正を続けていた。19日に国内6工場からの出荷停止を決定。軽自動車を除く日産の10月の新車販売は同52・8%減の1万2745台まで落ち込んだ。軽の生産は三菱自動車に委託しているため販売に支障はないが、軽も9304台と同20・4%減った。軽を含む新車販売全体は同43・0%減の2万2049台だった。

日産は国内市場で苦戦が続き、2012～16年はメーカー別で5位が定着していたが、昨秋に発売した小型車ノートのハイブリッド車がヒット。新車販売台数は9月まで11カ月連続で前年同月を上回っていた。今年1～9月の累計はわずかにダイハツ工業を上回り、国内4位に浮上していた。

(2017/11/1 レスポンス)

軽自動車販売、7か月連続プラス…3.7%増の14万0907台 10月

全国軽自動車協会連合会は11月1日、10月の軽自動車新車販売台数(速報)を発表。前

年同月比 3.7%増の 14 万 0907 台、7 か月連続のプラスとなった。

車種別では、乗用車が同 5.1%増の 11 万 0245 台で 8 か月連続のプラスだった。貨物車は同 1.1%減の 3 万 0662 台で 7 か月ぶりのマイナス。内訳は、ボンネットバンが同 19.8%減の 1220 台で 8 か月連続のマイナス。キャブオーバーバンは同 5.1%増の 1 万 5476 台で 7 か月連続のプラス。トラックは同 5.4%減の 1 万 3966 台で 8 か月ぶりのマイナスとなった。

ブランド別では、ダイハツが同 4.9%増の 4 万 9034 台を販売し、スズキから首位を奪還。そのほかは、ダイハツ、スズキ、ホンダを除く全ブランドが前年同月実績を下回った。

■セメント 前年同月比 4%増、前月比 2%増(248.2 万トン)

関東地区や東海地区への輸送が目立った。

(セメント協会「需要実績」及びヒアリング)

9 月の国内生産は 4,980 千トンと前年比 101.9%と 6 ヶ月連続で前年を上回った。

国内販売は 3,675 千トンで前年比 104.1%。5 ヶ月連続で前年を上回った。

近畿のマイナス並びに東北の前年比変わらず以外の地区でプラスとなった。

輸出は 943 千トン、前年比 111.5%、6 ヶ月連続増加。

*内航輸送は国内販売の数量を参考にする。

(2017/10/30 建通新聞)

上期のセメント国内需要、4年ぶりプラス セメント協会

セメント協会（福田修二会長）は、2017年度上期（4～9月）のセメントの国内需要について、前年同期比 3.1%増の 2084 万ト_nになるという見込みを明らかにした。上期の国内需要が前年をプラスするのは 4 年ぶり。同協会では、16 年度の補正予算による公共工事をはじめ、首都圏での再開発やオリンピック関連施設工事、北海道や九州での災害復旧工事などが増加に寄与したと見ている。

17 年度上期の国内販売を地区別に見ると、復興工事がピークアウトした東北（前年同期比 3.4%減）と、民間工事が不振だった近畿（2.6%減）を除き増加している。札幌周辺の建築工事や災害復旧工事が堅調な北海道（6.9%増）、民間工事やオリンピック関係工事が堅調な関東一区（6.2%増）、八ッ場ダムなどの公共工事と製品向け需要が堅調な関東二地区（8.2%増）、ダムなどの公共工事や災害復旧工事が堅調な九州（6.4%増）、公共・民間工事とも高水準な沖縄（13.0%増）で増加が目立つ。

同協会が当初見込んだ 17 年度の国内需要は前年度比 2.9%増の 4300 万ト_n。上期の伸びはこれを 0.2 ポイント上回った。今後の中長期的な国内需要について同協会は、プラス要因としてオリンピック関連の東京を中心とした建設投資や、リニア中央新幹線の建設と沿線開発を上げる。

一方、建設労働者の人手不足による工事の遅れや、建設工事費の上昇による計画の先送り、財政再建のための公共工事費の削減がマイナス要因になると懸念する。

10 年度以降の国内需要は 4161 万ト_n（10 年度）～4771 万ト_n（13 年度）の間で推移している。当面は同程度の需要が続くという見方だ。

9月の国内販売は4.1%増

セメント協会のまとめによると、9月のセメントの国内販売は前年同月比4.1%増の367万5000トで、5カ月連続の増加となった。

9月の輸出は11.6%増の94万3000トで、6カ月連続のプラス。国内販売と合わせた販売の合計は5.5%増の461万9000ト。7カ月連続の増加となった。

9月の生産量は1.9%増の498万ト。在庫は前月比5.3%減の390万5000トで、引き締まった需給状態となっている。

■油送船計 前年同月比2%減、前月比5%減 (972.8万kl、トン)

前年同月比 (増加品目) ケミカル、高圧液化、
(減少品目) 黒油、白油、高温液体、耐腐食
(変わらず)

輸送量の割合は白油 58%、黒油 24%、ケミカル 7%、高圧液化6%、耐腐食 4%、高温液体 1%

■黒油 前年同月比9%減、前月比2%減(232.2万kl)

電力需要の減少が継続している一方、製油所間の基材転送の増加により下げ留まっている。

■白油 前年同月比1%減、前月比5%減(565.4万kl)

台風18号の影響で輸送障害が見られた。また、天候不良によりガソリンの販売減少も続いている。冬期用の灯油の輸送も低調であった。

■ケミカル 前年同月比7%増、前月比3%減 (70.4万トン)

定修が一段落した。台風の影響は軽微であり、輸出用製品輸送や内需の高まりにより輸送は好調。

■高圧液化 前年同月比7%増、前月比8%減 (54.2万トン)

(液化石油ガス(LPG)、エチレン、塩ビモノマー(VCM)、液体アンモニア、アセトアルデヒド、
その他の高圧ガス、プロピレンオキシド)

LPGは前年比7%増、塩ビモノマーは29%減。

エチレンは72%増、液体アンモニアは10%増。

前月同様、LPGは前年が製油所の不具合による大幅減があり今年はなかったため増加した。エチレンも増加している。

■高温液体 前年同月比 15%減、前月比 9%減(10.3 万トン)

アスファルトは前年比 20%減、前月比 10%減。

その他の高温液体は 4%減、硫黄は 15%増。

(*アスファルト 6.8 万トン(66%)、その他の高温液体 3.3 万トン(32%)、硫黄 0.2 万トン(2%))

★石油統計のアスファルトの販売数量は前年比 103%、前月比変わらず

アスファルトは大口需要家向けや転送の減少が見られたため減少。

■耐腐食 前年同月比 5%減、前月比 9%減 (40.2 万トン)

(硫酸(肥料、繊維、製紙)、苛性ソーダ(石けん、紙パルプなど)、その他の腐食性液体、
その他の化学品)

(苛性ソーダは 16 万トン(39%)、硫酸は 14 万トン(35%)、その他の腐食性液体は 10 万トン(26%))

前年比で苛性ソーダ 12%減、硫酸 1%減、その他の腐蝕性液体 4%増。

苛性ソーダの需要の減少が見られたほか、硫酸は定修の影響を受け減少した。

「石油統計速報」(資源エネルギー庁資源燃料部政策課より)

燃料油の輸入、輸出

燃料油の輸入は 208 万 kl、前年同月比 101.6%と 2ヶ月連続で前年を上回った。輸出は 327 万 kl、前年同月比 104.6%と 3ヶ月連続で前年を上回った。

燃料油の国内販売

燃料油の国内販売は 1,351 万 kl、前年同月比 100.6%と 4ヶ月ぶりに前年を上回った。油種別にみると、ナフサ、灯油及び軽油は前年同月を上回ったが、ガソリン、ジェット燃料油、A重油及び B・C重油は前年同月を下回った。燃料油の輸入は 208 万 kl、前年同月比 101.6%。輸出は 327 万 kl、同 104.6%。

前年比で、ガソリンは 99.3%、ナフサは 107.6%、ジェット燃料油は 99.1%、灯油は 112.7%、軽油は 100.7%、A重油は 95.6%、B・C重油は 78.4%、アスファルトは 102.6%、LPG は 97.8%、LNG は 79.9%

前月比で、ガソリンは 88.1%、ナフサは 94.3%、ジェット燃料油は 96.7%、灯油は 144.6%、軽油は 103.0%、A重油は 108.2%、B・C重油は 86.5%、アスファルトは 100.2%、LPG は 90.8%、LNG は 76.2%

日本ガス協会 「9月都市ガス販売実績」

日本ガス協会が発表した 9月の都市ガス販売量実績(203事業者)は前年同月比▲8.0%。家庭用は+4.7%、商業用は▲7.7%、工業用は▲10.7%。

地域別販売量は、北海道地区▲2.5%、東北地区+1.1%、関東甲信越地区▲9.7%、東海北陸地区▲3.9%、近畿・中国・四国地区▲8.1%、九州・沖縄地区▲2.1%。

各都市の前年比気温差(℃)は、札幌▲1.7、仙台▲1.0、新潟▲1.7、東京▲1.6、名古屋▲1.6、大阪▲1.4、広島▲1.7、高松▲1.3、福岡▲0.8、長崎▲1.4。

全国主要 10都市の平均気温は前年比▲1.4度であった。

(2017/10/31 日経新聞)

4～9月都市ガス販売量最高 1.4%増

工業・家庭用が好調

日本ガス協会が31日発表した2017年4～9月の都市ガス販売実績(203事業者)は、前年同期比1.4%増の174億2600万立方メートルだった。上期として2期連続で増加し、過去最高を更新した。販売量の6割近くを占める工業用が増えたことが全体を押し上げた。家庭向けも平均気温が前年より低い月が多かったため、給湯需要が増加して前年より増えた。

工業用は前年同期比1.0%増の103億2800万立方メートルとなり、上期として過去最高だった。発電所や工場などの設備の稼働が増えた。

10都市平均の4～9月の平均気温は、前年と比べて0.4度低かった。給湯需要の多い家庭向け販売は気温の影響を受けやすく、前年同期比3.1%増の35億6160万立方メートルとなった。商業用も同0.1%増の21億63万立方メートルとなった。

9月単月のガス販売量は前年同月比8.0%減の26億205万立方メートルだった。工業用で設備の稼働が減り、10.7%減少になったのが響いた。

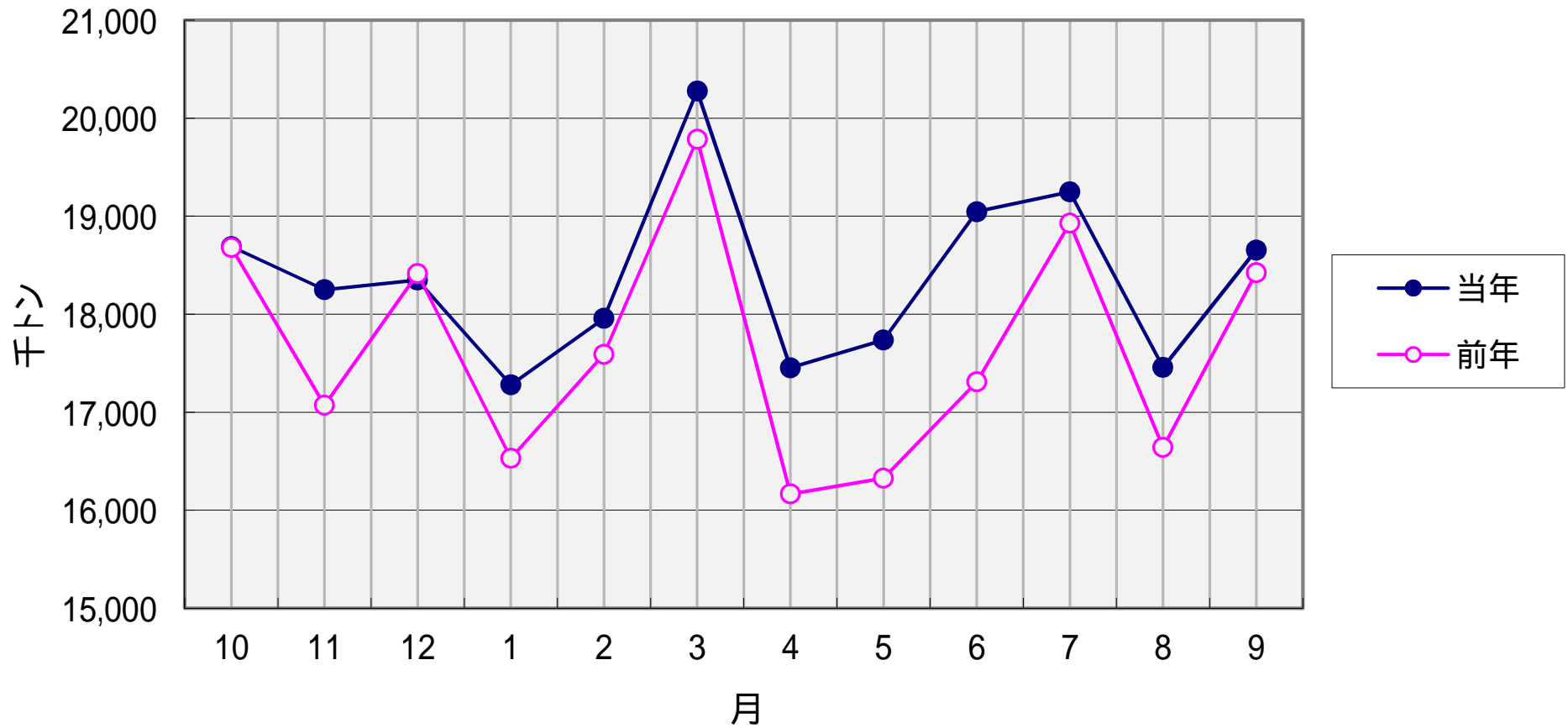
都市ガス業界は今年4月に家庭向けの小売り自由化が始まった。ガス協会の数字には電力大手のの販売分は計上されないが、気温の低下による販売量の増加により自由化の影響はまだ出ていない。

石油化学工業協会「9月実績概要」

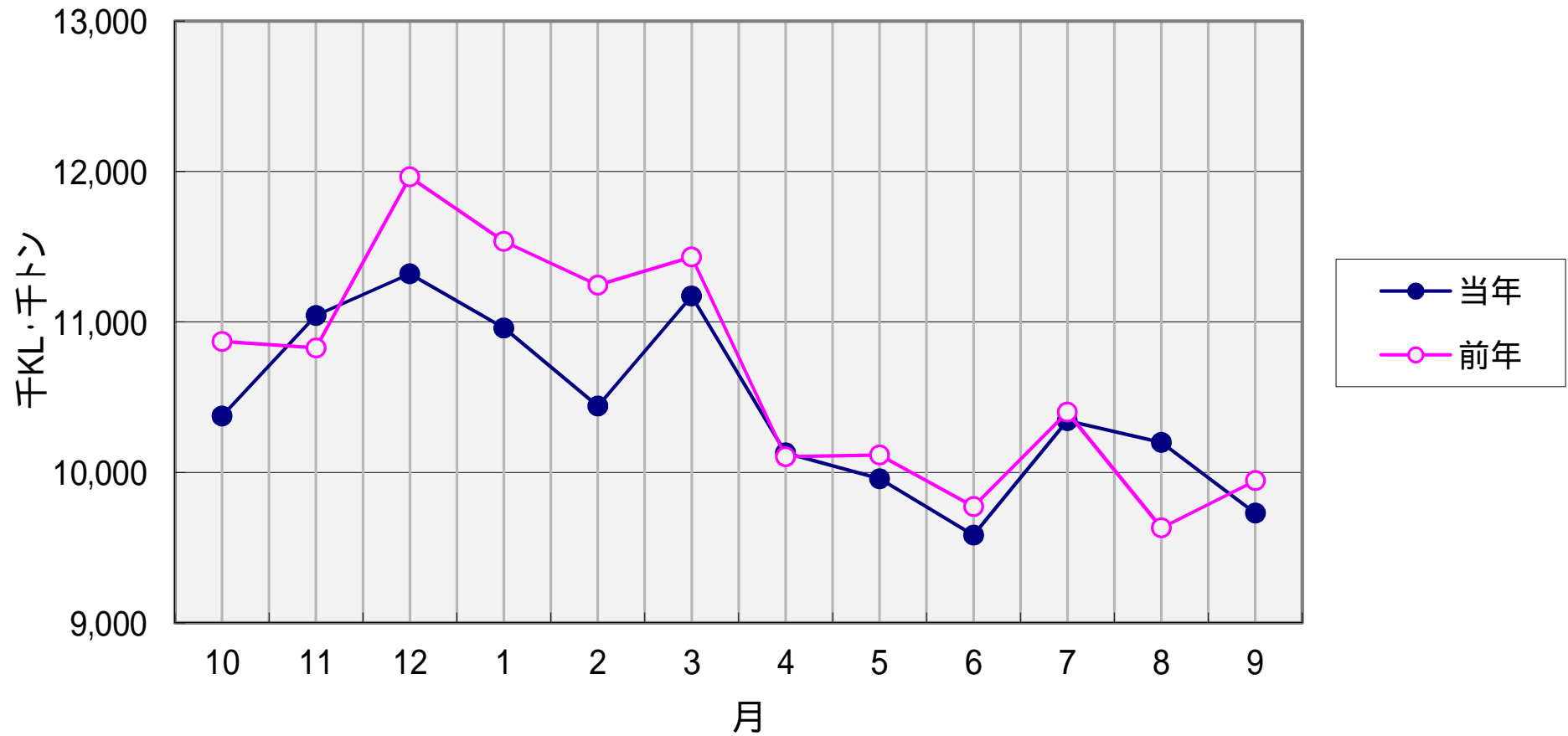
エチレンをはじめ各誘導品の生産は対前年比でほぼすべての製品が伸長。

エチレン 534,400トン 前月比▲4.6% 前年比+13.6%

内航輸送主要元請オペ【貨物船】 輸送実績の推移



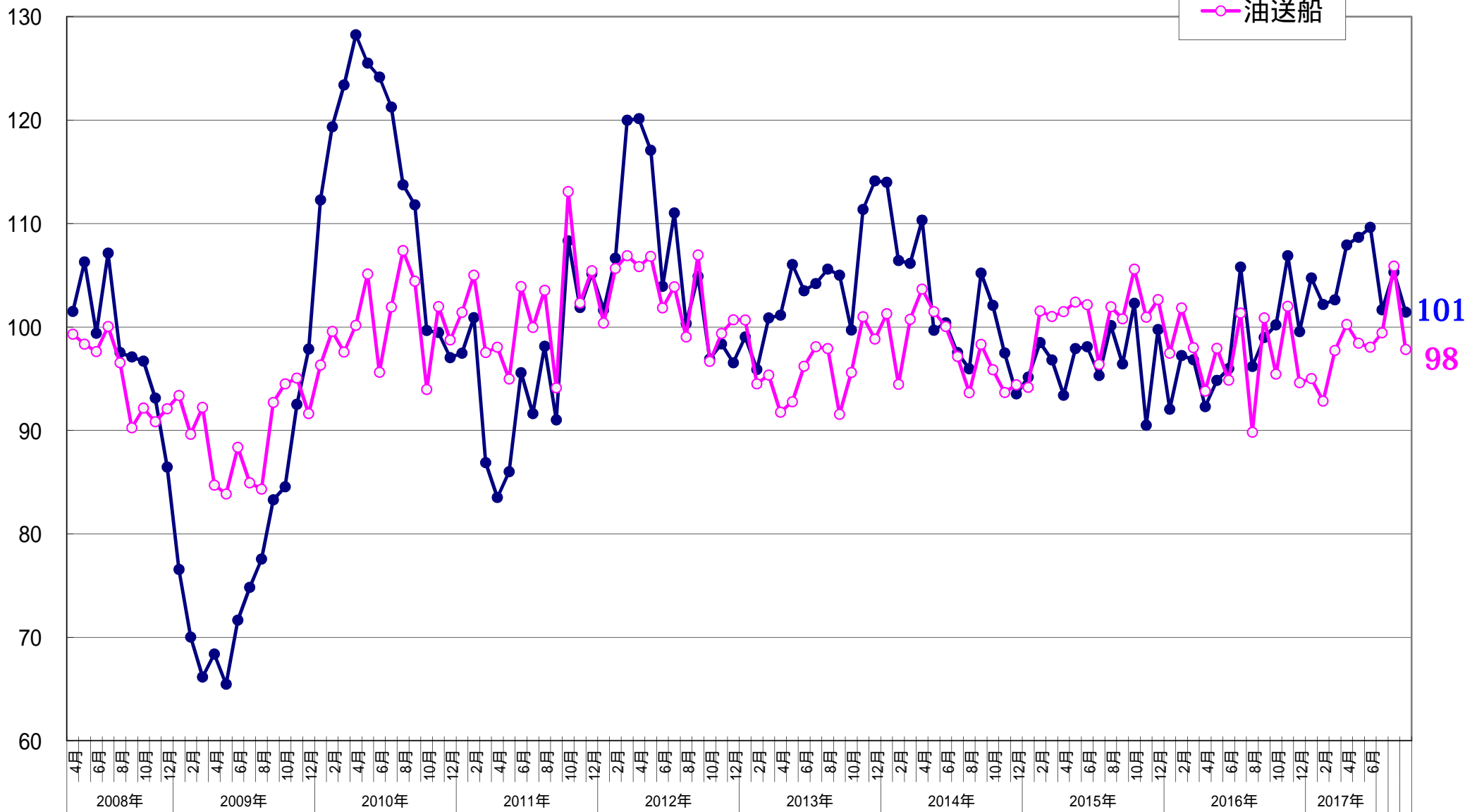
内航輸送主要元請オペ【油送船】 輸送実績の推移



比率(%)

輸送実績の推移 < 前年同月対比 >

- 貨物船
- 油送船

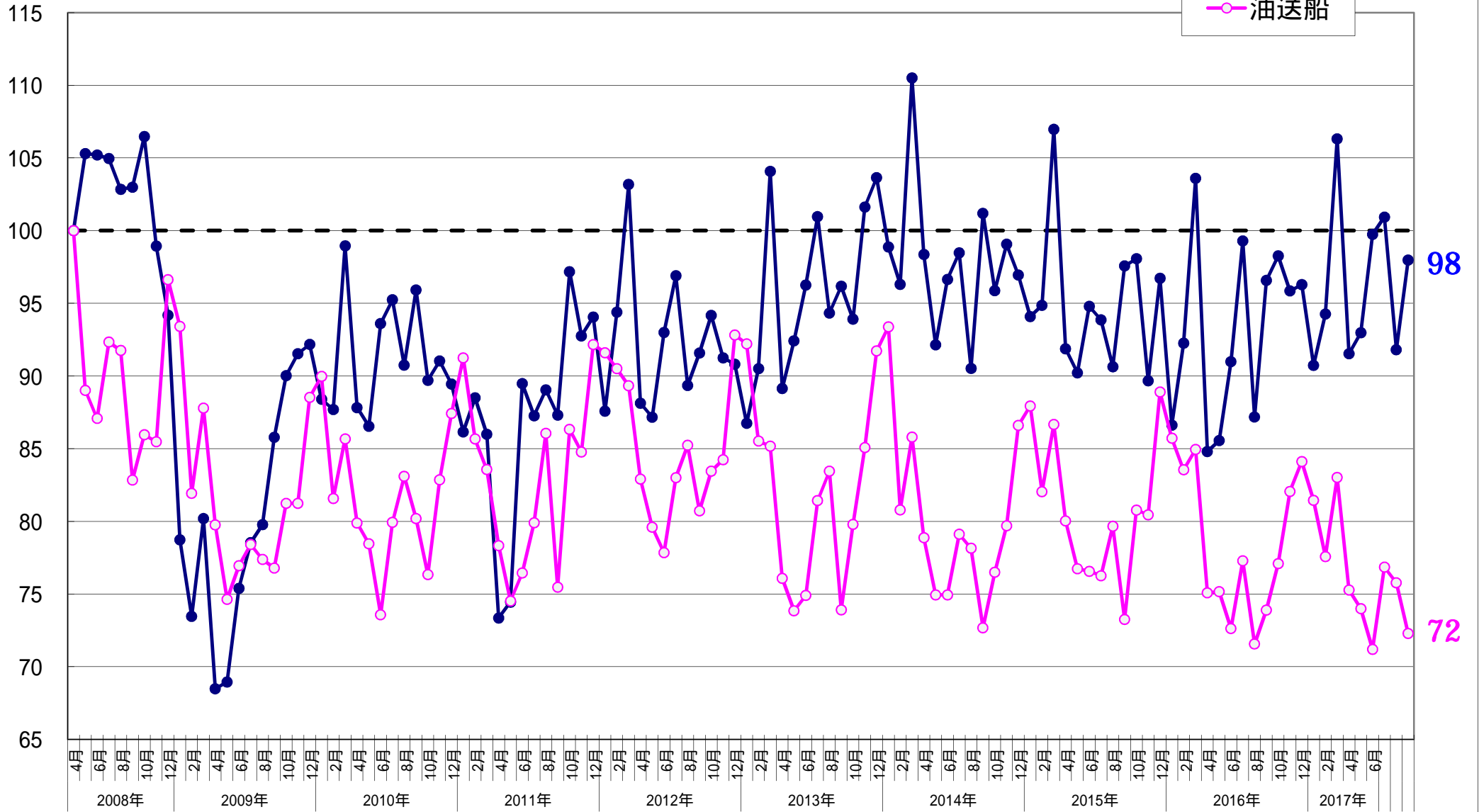


101
98

指数
2008年4月 = 100

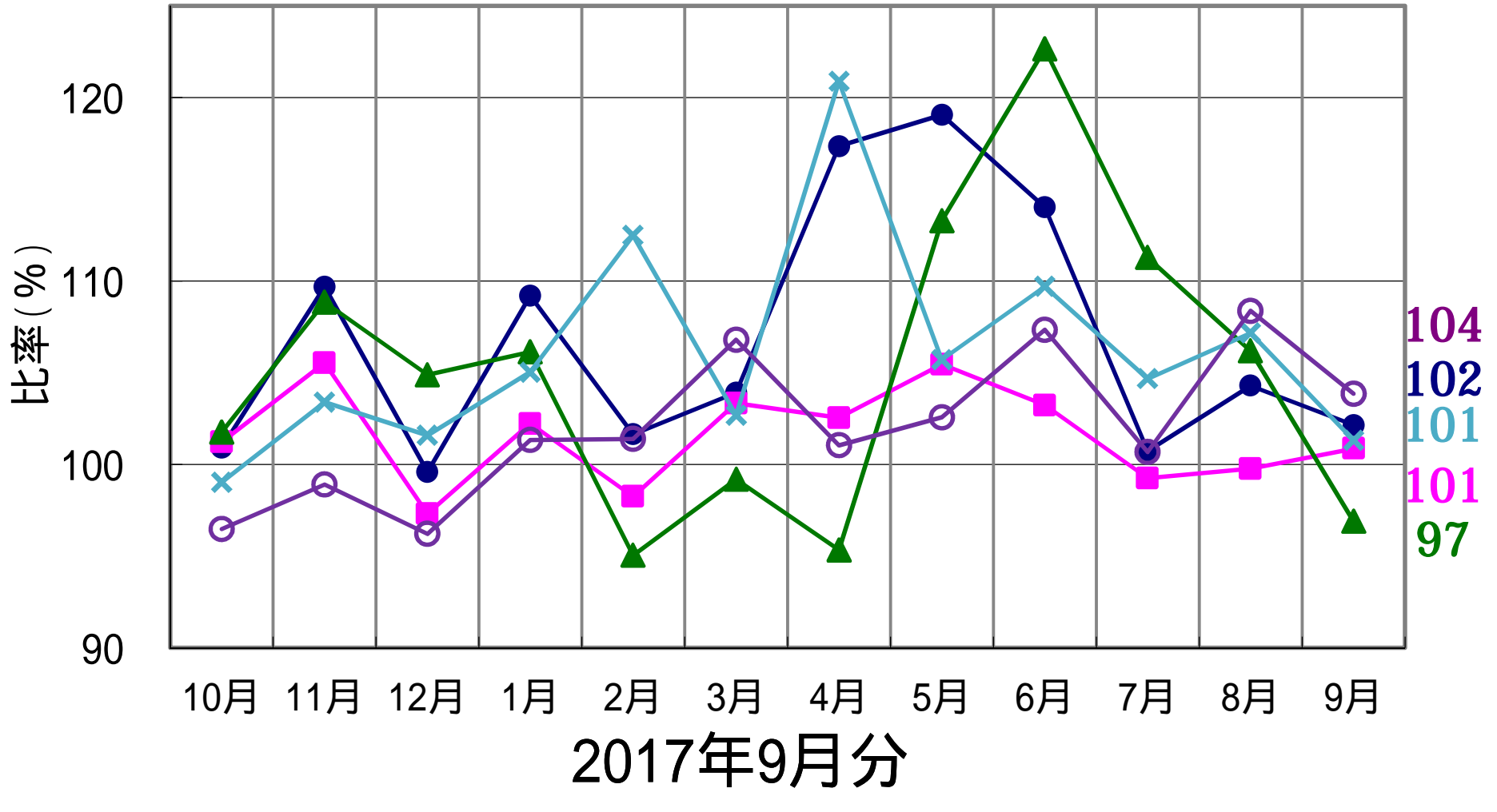
輸送実績の推移 < 輸送量 > (指数表示)

- 貨物船
- 油送船



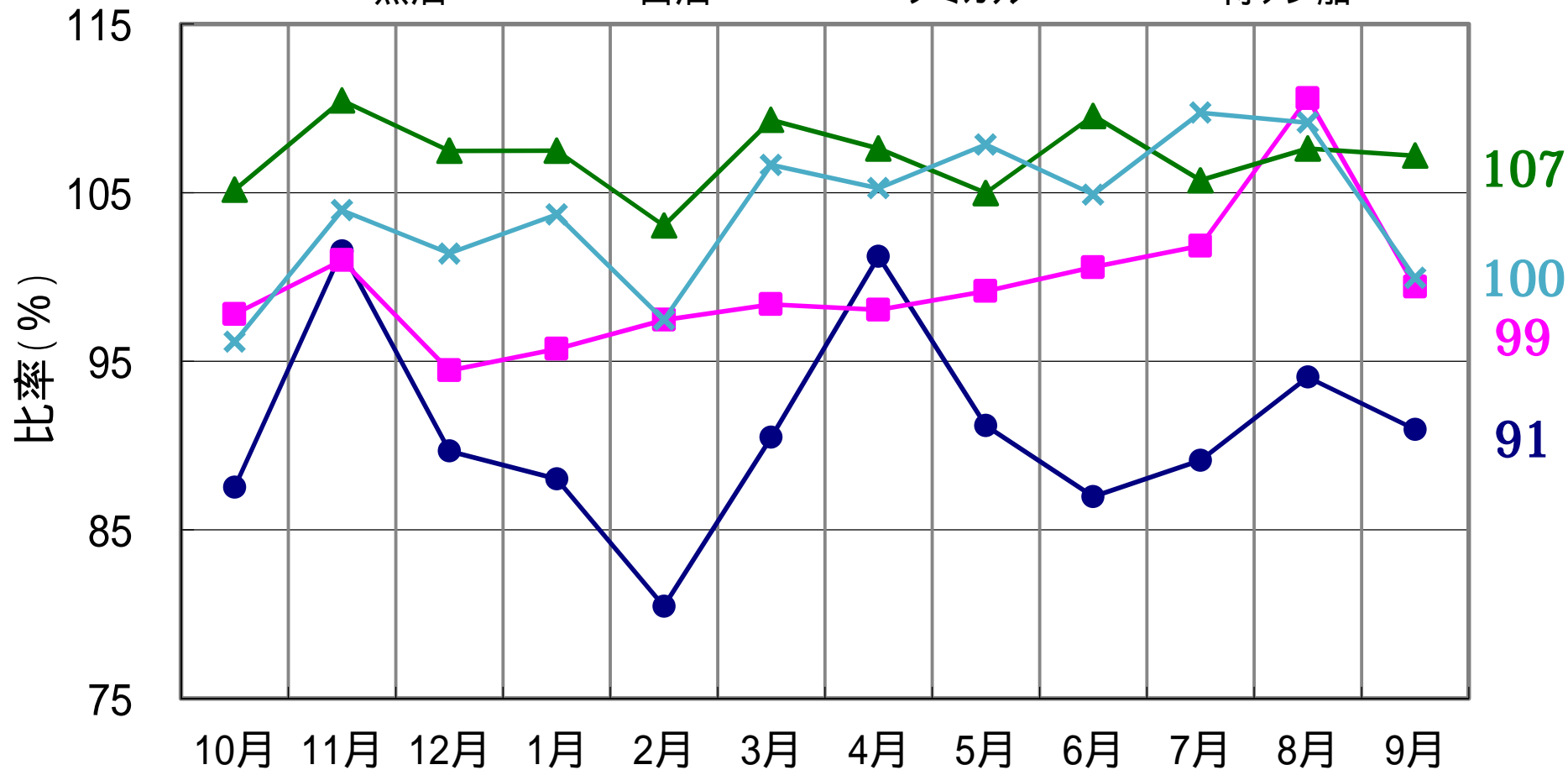
【貨物船】 主要品目の輸送実績の推移 < 前年同月対比 >

● 鉄鋼 ■ 原料 ▲ 雑貨 × 自動車 ○ セメント



【油送船】 主要品目の輸送実績の推移 < 前年同月対比 >

● 黒油 ■ 白油 ▲ ケミカル × 特タン船



2017年9月分